

第44週(10月27日～11月2日)トピックス: <インフルエンザ>

京都市の第44週のインフルエンザの定点当たり報告数は、12.03(前週4.91)、全国は14.90(前週6.29)と、ともに増加し、注意報レベルの基準値である「10」を超過しました(図1)。※下記報道資料ホームページ参照

本市のインフルエンザの発生状況について、前シーズン(2024/2025シーズン)は、第46週に流行入りの目安である「1.0」を超過しました。その後、第50週に15.85と急激に増加し注意報レベルとなり、翌週の51週には34.56で警報レベルの基準値となる「30」超過、さらに年末年始の第52週に55.79でピークを迎えた後、減少しました。

今シーズン(2025/2026シーズン)は第40週に流行入りし、今週(第44週)で注意報レベルを超過と、前シーズンに比べて早い時期に報告数が増加しています(図1)。

都道府県別では、前週時点で注意報レベルを超過していたのは、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県及び沖縄県の5都県でしたが、今週は、北海道、東北、関東地方を中心に25都道府県に急拡大しており、今後さらに全国的な流行拡大が予想されます(図2)。

今シーズンのこれまでの全国のウイルス型別検出割合を過去2シーズンと比較すると、今シーズンはA(H3)型が69.5%で最多、次いでA(H1)pdm09型、B型の順で、2シーズン前の2023/2024シーズンと同様の割合となっています。

インフルエンザは感染症法上5類の定点把握感染症に分類されており、インフルエンザウイルスを病原体とする感染症です。ウイルスに複数の型があるため、同じシーズン中に複数回感染することもあります。

インフルエンザの症状は、38℃以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛など全身の症状が突然現れます。併せて、のどの痛み、鼻汁、せきなどの症状も見られ、小児ではまれに急性脳症を、高齢者や免疫力の低下している人では肺炎を併発する等、重症化することがあります。

このため、65歳以上の高齢者では、重症化予防のため、インフルエンザワクチンの接種が推奨されています。ワクチンを接種すれば、インフルエンザに絶対に感染しないわけではありませんが、発病後の重症化や死亡を予防することに関して、一定の効果があることが認められています。本市においては、65歳以上の市民を対象にインフルエンザ予防接種が令和7年10月15日～令和8年1月31日に実施されています(下記ホームページ参照)。重症化予防のため、積極的にインフルエンザワクチンを接種をしましょう。また、感染防止のために手洗いや咳エチケットの励行、免疫力向上のためにバランスの取れた食事や十分な睡眠などを心掛けましょう。

○令和7年度 京都市高齢者インフルエンザ予防接種のお知らせ(京都市情報館)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000345503.html>

○【報道資料】インフルエンザの定点当たり報告数が注意報レベルになりました(京都市情報館 医療衛生企画課)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000347488.html>

図1 インフルエンザの推移グラフ

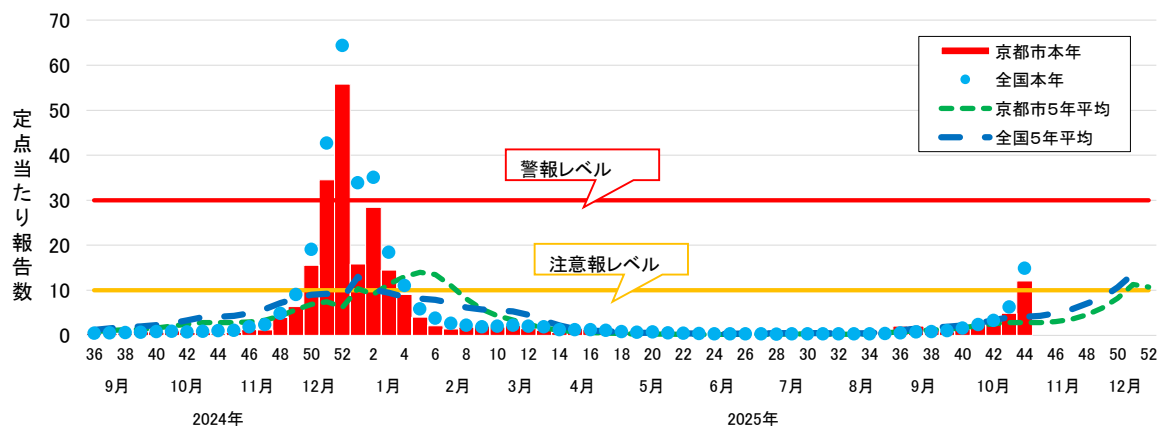


図2 都道府県別定点当たり報告数の推移

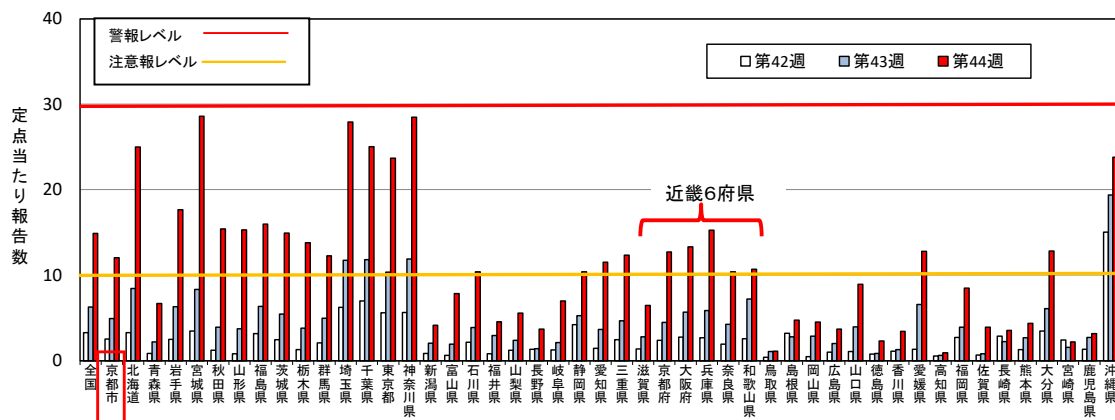


図3 全国の過去3シーズンのインフルエンザウイルス型別検出割合

